

英国ガーデニングの持続可能性

－野生植物の山採り規制をめぐって－

岩本 陽児(和光大学准教授)

How Did the English Gardening Obtain Sustainability?

－ historical development of legal system for protecting wild plants: an analysis－

Yohji IWAMOTO, Associate Professor, Wako University, Tokyo

This article discusses on the history of the English countryside since the mid 19th century to date. After summarising uncontrolled uprooting of wild plants during the Victorian period, we focused on the contribution of the CPRE of the interwar years, then examine the Wildlife & Countryside Act(1981), which enabled strict and nationwide control for the protection of, both endangered and common species.

はじめに

私は本誌昨年号で、この15年間の英国ガーデニングの変遷を振り返り、英国にあってガーデニングの社会的な下方拡散は比較的近年の現象であること、しかもその一方で、それを可能とした社会資本の蓄積は第一次大戦後の公共政策にまでさかのぼることを明らかにした。英国ガーデニングも、日本と同じく、つねに現在進行形であることに気づいていただければ、私の執筆意図は達せられたと思っている。

しかし、やや詳しくみていく時、いくつかの点で彼我の重要な違いに気づく。そこで本稿では、「持続可能性」の見地から、英国における野生植物の山採り規制の起源と現状を報告したい。山採り規制はすぐれて文化的営為で

ある園芸の現代的な達成と表裏一体をなすものであるが、こうしたいわば「見えにくい」ことがらは、紹介されることがほとんどなかった。かえりみれば現在、とりわけ都市圧の高い首都圏周辺に残された里山における、善意の市民による緑地保全活動が、結果的に希少種を人目にさらし、盗掘を助長しかねないとの悩ましい問題に直面していることも、本稿執筆の動機のひとつである。

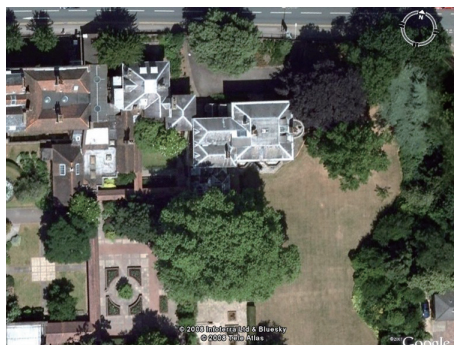
1. 背景

産業化、大都市化が進んだ19世紀ビクトリア時代には、その反動として都市住民の自然愛好ブームが起り、アマチュアによる博物学研究が流行した。植物も例外ではない。有産階級の家庭では夏の間、暖炉周りを切花や鉢植えで飾りたて、シダ専用の温室を持つところもあった（写真1）。かたや労働者階級でも、産業革命のおかげで顕微鏡が普及したことにより、とりわけ若い女性の間で植物研究が高尚な趣味として楽しめるようになったことは良く知られている。

かたや、英国¹のフローラは本来貧困であったため、国内外でふたつの現象が並行した。

ひとつに、英国内をみると、野生植物の徹底した科学調査にもとづく『植物誌』の刊行が指摘できる。これは、各州のアマチュア愛好家団体により推進された。

もうひとつが、国内野生植物の激減である。これは、かならずしも悪意からとはいえない場合もあるが²、盗掘もさかんであった。希少植物



（写真1）画面中央、プラタナスの蔭になっている部分にビクトリア時代のシダ温室がある。
レディング市ジョージ・パーマー旧邸。

©Google Earth 2008



英国内からほとんど姿を消した
カラフトアツモリソウ。
オーストリアで印刷された
絵葉書から(c.1960)

に関し、次のエピソードがある。

「森の一角に、カラフトアツモリソウ *Cypripedium calceolus*が自生していた。毎年、開花の季節を前に、近在の老婦人がつぼみを摘み取って、人目に触れないように守っていた。その後、老婦人が世を去って、このシプリペディウムが花を咲かせたとたんに、その株は消滅した」。

世界のすみずみまでプラントハンターを送り込んだ時代の、本国における状況の一端を垣間見ることが出来る。

なお、上記したようにシダは格別の愛好を受けたようで、幕末～明治にかけて持ち帰られたナガサキシダや、イヌワラビの色変わりのニシキシダは今も愛好されている。とくに後者については園芸種が数種あり、昨秋にはRHS（王認園芸協会³）の月刊誌が特集を組んでいたから、ご覧になった方も多いだろう⁴。

このような、まさに「野放図」としか言いようのない状況を問題視したNPOはすでにビクトリア時代後期の1886年に誕生している⁵。しかし、この問題への認識が徐々に変化し、「政策」が求められるようになったのは、管見のかぎり、前に私が現代的な英国ガーデニングの条件が整ったと指摘した第一次大戦後のことである。次にその過程をたどってみよう。

2. 両大戦間期⁶の野生植物保存運動

英国環境史を語る上で欠かせない運動団体、田園イングランド保存協議会（Council for the Preservation of Rural England 以下CPRE⁷）の誕生は1926年のことであった。野生植物の保護は、CPREが取り組んだ広範な運動の一環であったが、CPREが当初から野生植物の保護立法に乗り出したのではない。会員間で現行法に不備ありと合意され、新法の提案をするまでに数年を要している。発議はまず、地域から行われた。

まず、昭和初年にあたる1928年にCPREダラム支部〈イングランド東北部の産炭地〉がメディアに呼びかけてキャンペーンを張った⁸。この年、ワイ河谷州庁Wye Valley County Councilおよびハートフォード州⁹が野生植物、シダの採取を条例bylaw¹⁰で禁止している。同年、CPREは若干の地主および地方自治体がすでに公衆に対して掲示を出し、野の花の摘み取りや灌木、植物の

掘り取りをやめるよう要請していることを周知し、他でもこの例に倣うことを強く勧めた。

翌1929年4月にCPREは構成団体のひとつ全国州庁会議County Councils Associationから「内務省Home Officeとの調整の結果、野生植物保護のために罰則規定を伴った条例の合意を見た」との通知を受け、タイムズ紙に公表している¹¹。

「なんびとも、地主または占有者、またはもしあれば法によりその行為を認められた場合を除き、どのような道、径〈こみち〉、路傍、道の土手または生垣hedge、入会地または一般の立ち入りが可能な場所に自生する、いかなるシダその他の植物の掘り上げuprootを行ってはならない。」

「上記の条例に反する行為を行ったものは、そのひとつひとつの違反につき、初犯は40シリング以下、その後は5ポンド以下の罰金を科せられる。」

同年、CPRE内に「花の連盟(*The Flowers' League*)」が結成され、全国の地方自治体にこの条例の採択を求めている¹²。

一方、CPREの構成団体のひとつ全国婦人会総連合(*National Federation of Women's Institutes*)でも、各地の州自治体(*County Council*、日本の県庁に相当)に対し、田園地帯でのごみ問題、見苦しい広告看板撤去とともに野生植物の保護を条例化するように呼びかけている¹³。この年、CPREではハートフォード州美術協会との共催で、野生の草花保護のためのポスターコンテストを行っている¹⁴。

これらを要するに、英国内における山採りの禁止措置は、今に始まったことではなく、少なくとも第一次大戦後に、園芸関係団体というよりはむしろ、田園地帯のアメニティ保全すなわち、「あるべきものが、当然、そこにあること」を追求する、審美的ともいえる広範な環境保全運動の一環として取り組まれたことが分かる¹⁵。少しく広範な歴史的文脈からすれば、植物愛好の趣味という「私権」にたいし、公共の福祉の見地から介入を行った点で、これもまた後期ビクトリア時代の社会改良運動の流れを汲むものといえる。21世紀の今日的判断からすれば、両大戦間期の法規制志向の限界は一国内主義だったことを批判することも可能だろう。しかし、民間の自助努力から、法治主

義への移行の折り返し点がこの時期にあったことが指摘できる。

3. 1981年野生生物・田園法The Wildlife & Countryside Act 1981(WCA1981)

今日、野生生物保護の包括的な基本法となっているのが、69章からなる上記1981年法である¹⁶。保守党サッチャー政権時代に制定された本法は、ヨーロッパ野生生物・自然生息地保全ベルン会議¹⁷および大ブリテン島野鳥保全に関する協議会指令¹⁸を受けて、既存法制¹⁹を整理したものである。もちろん、1973年のワシントン条約以降のものであり、その後、1985年地方政府法、1989年水法、1990年環境保護法および労働党ブレア政権時代になってから制定された田園・通行権法(2000年)²⁰と自然保全(スコットランド)法²¹等によって改訂が加えられているが、81年法として今も通用している。

この法は大きく4部から構成されている。まず野生生物で、植物はここに位置づけられている。次に自然保護区と田園、国民公園、第三が公衆の通行権、最後がその他一般である。これに17項目の附表Scheduleがつく。英国には憲法がないため、「種の保存法」²²の目的条項のような前ふりがなく、先行諸法への事務的な言及のあと、いきなり本題に入る体裁である。

野生生物の部は、まず鳥類の保護に8条、動物に4条、その次が植物で1条、以下雑則、補則となっている。

第13条にある植物の保護規定の概要を見ると、

(1)

(a)故意に附表8に記載された野草を摘む、掘り上げる、破壊する

(b)許可を得ていない者が故意に附表に記載されていない植物を掘り上げる

(2)

(a)附表8に記載された野草について、生体、枯れたもの、またはその一部またはその抽出物を問わず、売却、売却の申し出、または販売目的での陳列、または所有、または売却目的での運搬

(b)これらのあらゆるものについて、その者が購入・売却、または購入・売却の意思ありとの意図を持っていると理解されそうなあらゆる広告を公にするまたは公にする結果を惹起すること

これらのことをすべて違法としている。

罰則規定は、法の第一部末の21条に共通のものがあり、程度に応じて200ポンド、500ポンド、1000ポンド以下の罰金となっている²³。この罰則規定がどの程度機能しているのか、適用の実態調査については今後の課題としたい。

附表8については、末尾の資料をご覧いただきたい。当初61種だったのが、88年、92年の追加(若干の指定解除もある)を経て、200種に近い種が指定されている。

4. 考察

19世紀に英国の自然回帰ブームが田園の荒廃をもたらしたことから始まって、野生植物の保全にかかわり1930年と1980年と、約半世紀の法制の変化を対照的に見てきた。そこで見てとれるのは、第一に、田園のアメニティ確保の一環としてはじまった野生植物の管理強化が、戦後の国際的な商取引拡大をも視野に入れた希少種の保全へと広がったことである。第二に、それに伴い、地方自治体レベルでの規制から、中央政府による全国一律への規制へと責任主体が変更となった。第三に、自生植物の現地保存が徹底的に重要視されていることが指摘できる。早くも第三条で「財産権の尊重」をうたっている日本国政府の現行「種の保存法」と比べる時、ひととき明らかだが、野草がそこに自生していることは、ある意味で私有財産権よりも大切にされている。

こうした歴史を持つ英国では、園芸文化をささえる国民意識として、野山の花は現地で楽しむか、人工繁殖されたものを園芸店で購入して庭で楽しむものとの常識が定着している。例えば、擬似極相の下草となってブナ・オークの春の林床を一面の紫に染めるイングリッシュ・ブルーベル*Hyacinthoides non-scripta*のように鑑賞価値が優れたものであっても、野生種はリストに記載されて、法によって厳重に守られている。この点につき、英国人の知人のひとは次のように語っていた。

「ブルーベルは山で採ってはいけないのよ。だって、お金さえ出せばガーデンセンターで売っているじゃない」。

こうした英国園芸文化の達成をみると、本稿の冒頭に述べた彼我の違いは

さらに明らかとなる。「花盗人は盗人にあらず」の言葉だけが独り歩きし²⁴、刑法130条の不法侵入、同法235条の窃盗罪がチェックされず、レッドデータブック掲載種にも保護規定がない。罰則規定をともなう条例を持った先進的な自治体でさえ、その規定の適用事例はほとんどないという。摘発、逮捕、送検、裁判の流れに乗ってはじめて条例の罰則規定が発動するからである。そのため、保護種のリストに載せることが逆に盗掘を誘引しないかと懸念する声さえ聞く。日本国内の野生植物の持続可能性を担保するためには、相続などによる制度的な緑地・里山の消滅をなくすことと、英国に倣って国土全体に自然保護区域並みの規制をかける抜本的な法改正、さらに法の履行を確実にするための犯罪摘発システムの整備が必要である。

紙数が尽きた。ミズゴケとピートモスの不使用志向、有機園芸の奨励については稿を改めたい。

謝辞

貴重な情報をいただいた(社)日本ナショナル・トラスト協会ならびに次の自治体の自然保護担当部局の職員各位にお礼申し上げます。香川県、川崎市、熊本県、高知県、広島県。

資料:附表8〈属名、種名、英名、指定年、(和名)の順²⁵〉

Ajuga chamaepitys Ground pine 1992 (シソ科キランソウ属キランソウ)

Alisma gramineum Ribbon-leaved water-plantain 1981 (サジオモダカ属クサオモダカ)

Allium sphaerocephalon Round-headed leek 1981 (アリウム「丹頂」)

Althaea hirsuta Rough marsh-mallow 1981 (タチアオイ類)

Alyssum alyssoides Small alison 1981 (アレチナズナ)

Apium repens Creeping marshwort 1988 (セリ科)

Arabis alpina Alpine rock-cress 1988 (アブラナ科 ヤマハタザオ属)

Arabis scabra (stricta) Bristol rock-cress 1988 (同上)

Arenaria norvegica Norwegian sandwort 1981 (ナデシコ科、ノミノツヅリの仲間)

Artemisia campestris Field wormwood 1981 (キク科ニイタカヨモギ)

Atriplex pedunculata (*Halimione pedunculata*) Stalked orache 1992 (アカザ科ハマアカザ属)

Bupleurum baldense Small hare's-ear 1981 (セリ科、ミシマサイコの仲間)
Bupleurum falcatum Sickie-leaved hare's-ear 1981 (同上)
Carex depauperata Starved wood-sedge 1981 (カヤツリグサ科、スゲ類)
Centaureum tenuiflorum Slender centaury 1992 (リンドウ科シマセンブリ属ハナハマセンブリ)
Cephalanthera rubra Red helleborine 1981 (赤紫色の花を咲かせるキンランの仲間)
Chenopodium vulvaria Stinking goosefoot 1988 (アカザ科)
Cicerbita alpina Alpine sow-thistle 1981 (キク科キケルビタ属)
Clinopodium menthifolium (*Calamintha sylvatica*) Wood calamint 1981 (シソ科トウバナ属)
Coincya wrightii (*Rhynchosinapis wrightii*) Lundy cabbage {ランディ島の固有種} 1988
Corrigiola litoralis Strapwort 1988
Cotoneaster integerrimus (*Cotoneaster cambrica*) Wild cotoneaster 1981 (原種コトネアスター)
Crassula aquatica Pigmyweed 1988
Crepis foetida Stinking hawk's-beard 1988
Cynoglossum germanicum Green hound's-tongue 1988
Cyperus fuscus Brown galingale 1981
Cypripedium calceolus Lady's-slipper 1981 (カラフトアツモリソウ)
Cystopteris dickieana Dickie's bladder fern 1981
Dactylorhiza lapponica Lapland marsh-orchid 1992
Damasonium alisma Starfruit 1981
Dianthus armeria Deptford pink 1998 England and Wales only (ノハラナデシコ)
Dianthus gratianopolitanus Cheddar pink 1981 (シバナデシコ)
Diapensia lapponica Diapensia 1981 (イワウメ)
Eleocharis parvula Dwarf spike-rush 1998 (ヘアーグラス/チャボイ)
Epipactis youngiana Young's helleborine 1988
Epipogium aphyllum Ghost orchid 1981 (トラキチラン ラン科アオキラン属の腐生ラン)
Equisetum ramosissimum Branched horsetail 1988
Erigeron borealis Alpine fleabane 1988

Eriophorum gracile Slender cottongrass 1988 (イヌドクサ トクサ科トクサ属)
Euphorbia peplis Purple spurge 1981 指定解除 1992
Eryngium campestre Field eryngo 1981 (ヒゴタイサイコ セリ科エリンジウム属)
Filago lutescens Red-tipped cudweed 1988
Filago pyramidata Broad-leaved cudweed 1992
Fumaria reuteri (*martinii*) Martin's ramping-fumitory 1988
Gagea bohemica Early star of Bethlehem 1988
Gentiana nivalis Alpine gentian 1981 (ユキリンドウ)
Gentiana verna Spring gentian 1981 (ヨーロッパリンドウ)
Gentianella anglica Early gentian 1992
Gentianella ciliata Fringed gentian 1988
Gentianella uliginosa Dune gentian 1992
Gladiolus illyricus Wild gladiolus 1981 (原種グラジオラス)
Gnaphalium luteoalbum Jersey cudweed 1981 (セイタカハハコグサ)
Hieracium attenuatifolium Weak-leaved hawkweed 1992
Hieracium northroense Northroe hawkweed 1992
Hieracium zetlandicum Shetland hawkweed 1992
Himantoglossum hircinum Lizard orchid 1981
Homogyne alpina Purple colt's-foot 1988
Hyacinthoides non-scripta Bluebell 1998 S.13(2) sale only (イングリッシュ・ブルーベル)
Lactuca saligna Least lettuce 1981
Leersia oryzoides Cut-grass 1998 (エゾノサヤヌカグサ)
Limonium paradoxum St. David's sea lavender 1981 指定解除 1992
Limonium recervum Recurved sea lavender 1981 指定解除 1992
Limosella australis Welsh mudwort 1992
Liparis loeselii Fen orchid 1981 (ラン科クモキリソウ属)
Lloydia serotina Snowdon lily 1981 (ユリ科チシマアマナ)
Luronium natans Floating water-plantain 1992
Lychnis alpina Alpine catchfly 1981 (流通名, アルプスセンノウ)
Lythrum hyssopifolia Grass-poly 1988 (コメバミソハギ)

Melampyrum arvense Field cow-wheat 1981 (ママコナの仲間)
Mentha pulegium Pennyroyal 1988 (ペニーロイヤルミント/ペニーロイヤルハッカ)
Minuartia stricta Teesdale sandwort 1981
Najas flexilis Slender naiad 1992 (イバラモ類)
Najas marina Holly-leaved naiad 1988 (同上)
Ononis reclinata Small restharrow 1988
Ophioglossum lusitanicum Least adder's-tongue 1988
Ophrys fuciflora Late spider-orchid 1981
Ophrys sphegodes Early spider-orchid 1981
Orchis militaris Military orchid 1981 (ラン科ハクサンチドリ属)
Orchis simia Monkey orchid 1981 (同上)
Orobanche artemisiae-campestris (*Orobanche loricata*) (*Orobanche picridis*) Oxtongue
 broomrape 1981
Orobanche caryophyllacea Bedstraw broomrape 1981
Orobanche reticulata Thistle broomrape 1981
Petrorhagia nanteuilii Childing pink 1981 (イヌコモチナデシコ)
Phyllodoce caerulea Blue heath 1981 (エゾノツガザクラ)
Phyteuma spicatum Spiked rampion 1992
Polygonatum verticillatum Whorled Solomon's-seal 1981 (ユリ科ナルコユリ類)
Polygonum maritimum Sea knotgrass 1981
Potentilla rupestris Rock cinquefoil 1981 (シロバナロウゲ)
Pulicaria vulgaris Small fleabane 1988
Pyrus cordata Plymouth pear 1981
Ranunculus ophioglossifolius Adder's-tongue spearwort 1981
Rhinanthus serotinus Greater yellow-rattle 1981
Romulea columnae Sand crocus 1988
Rumex rupestris Shore dock 1992
Salvia pratensis Meadow clary 1992
Saxifraga cernua Drooping saxifrage 1981 (ムカゴユキノシタ)
Saxifraga cespitosa Tufted saxifrage 1981 (ユキノシタ科ユキノシタ属)

Saxifraga hirculus Yellow marsh-saxifrage 1992 (キバナクモマグサ)
Scirpus triqueter (*Scirpus triquetrus*) Triangular club-rush 1981 (サンカクイ)
Scleranthus perennis Perennial knawel 1981 (アオバナツメクサ)
Scorzonera humilis Viper's-grass 1988
Selinum carvifolia Cambridge milk-parsley 1988
Senecio paludosus Fen ragwort 1988 (ナルトサワキク)
Stachys alpina Limestone woundwort 1981 (高山性スターチス)
Stachys germanica Downy woundwort 1981 (カッコウソウーゲルマニカ)
Tephrosia integrifolia subspecies *maritima* South Stack fleawort 1998 (オカオグルマ)
Teucrium botrys Cut-leaved germander 1988 (ニガクサ)
Teucrium scordium Water germander 1981
Thlaspi perfoliatum Perfoliate penny-cress 1992
Trichomanes speciosum Killarney fern 1981
Veronica spicata Spiked speedwell 1981 (ゴマノハソウ科クワガタソウ属)
Veronica triphyllos Fingered speedwell 1988 (ミツバインノフグリ)
Viola persicifolia Fen violet 1981 (原種ビオラ)
Woodsia alpina Alpine woodsia 1981
Woodsia ilvensis Oblong woodsia 1981 (ミヤマイワデンダ)

こけ類 (Moss)

Acaulon triquetrum Triangular pygmy-moss 1992
Anomodon longifolius Long-leaved anomodon 1998 (キヌイトゴケ)
Bartramia stricta Rigid apple-moss 1992
Bryum mamillatum Dune thread-moss 1992
Bryum neodamense Long-leaved threadmoss 1998
Bryum schleicheri Schleicher's thread-moss 1992
Buxbaumia viridis Green shield-moss 1992
Cryphaea lamyana Multi-fruited river-moss 1992
Cyclodictyon laetevirens Bright-green cave-moss 1992
Desmatodon cernuus Flamingo moss 1998

Didymodon cordatus (*Barbula cordata*) Cordate beard-moss 1992
Didymodon glaucus (*Barbula glauca*) Glaucous beard-moss 1992
Ditrichum cornubicum Cornish path-moss 1992
Grimmia unicolor Blunt-leaved grimmia 1992
Hamatocaulis (*Drepanocladus*) 〈ミズヤナギゴケ属〉
vernicosus Slender green feather-moss 1992
Hygrohypnum polare Polar feather-moss 1998
Hypnum vaucheri Vaucher's feather-moss 1992 (ハイヒモゴケ)
Micromitrium tenerum Millimetre moss 1992 (カンムリゴケ)
Mielichhoferia mielichhoferi Alpine copper-moss 1992 (ホソバゴケ)
Orthotrichum obtusifolium Blunt-leaved bristle-moss 1992 (マルバタチヒダゴケ)
Plagiothecium piliferum Hair silk-moss 1992
Rhynchostegium rotundifolium Round-leaved feather-moss 1992 (マルバカヤゴケ)
Saelania glaucescens Blue dew-moss 1992 (アオゴケ)
Scorpidium turgescens Large yellow feather-moss 1992
Sphagnum balticum Baltic bog-moss 1992
Thamnobryum angustifolium Derbyshire feather-moss 1992
Zygodon forsteri Knothole moss 1992
Zygodon gracilis Nowell's limestone-moss 1992

Liverworts類

Adelanthus lindenbergianus Lindenberg's leafy liverwort 1992
Geocalyx graveolens Turpswort 1992
Gymnomitrium apiculatum Pointed frostwort 1992 (トガリサキジロゴケ)
Jamesoniella undulifolia Marsh earwort 1992
Lophozia (*Leiocolea*) *rutheana* Norfolk flapwort 1992
Marsupella profunda Western rustwort 1992
Petalophyllum ralfsii Petalwort 1992
Riccia bifurca Lizard crystalwort 1992
Southbya nigrella Blackwort 1992

きのこ類(Fungi)

- Battarraea phalloides Sandy stilt puffball 1998
Boletus regius Royal bolete 1998 (アケボノヤマドリタケ)
Buglossoporus pulvinus Oak polypore 1998 (コカンバタケ)
Hericinum erinaceum Hedgehog fungus 1998

地衣類(Lichens)

- Alectoria ochroleuca Alpine sulphur-tresses 1998 (コガネキノリ)
Bryoria furcellata Forked hair-lichen 1992 (コフキイバラキノリ)
Buellia asterella Starry breck-lichen 1992
Caloplaca luteoalba Orange-fruited elm-lichen 1992
Caloplaca nivalis Snow caloplaca 1992
Catapyrenium psoromoides Tree catapyrenium 1992 (キノボリウロコゴケ)
Catillaria laureri Laurer's catillaria 1992
Catolechia wahlenbergii Goblin lights 1998 (キイロスミイボゴケ)
Cladonia convoluta Convoluted Cladonia 1998
Cladonia stricta Upright mountain-cladonia 1992
Collema dichotomum River jelly-lichen 1992
Enterographa elaborata New Forest beech-lichen 1998
Gyalecta ulmi Elm gyalecta 1992
Heterodermia leucomelos Ciliate strap-lichen 1992 (イトゲジゲジゴケモドキ)
Heterodermia propagulifera Coralloid rosette-lichen 1992
Lecanactis hemisphaerica Churchyard lecanactis 1992
Lecanora achariana Tarn lecanora 1992
Lecidea inops Copper lecidea 1992
Nephroma arcticum Arctic kidney-lichen 1992 (ミヤマウラミゴケ)
Pannaria ignobilis Caledonian pannaria 1992
Parmelia minarum New Forest parmelia 1992

Parmentaria chilensis Oil-stain parmentaria 1992
Peltigera lepidophora Ear-lobed dog-lichen 1992 (ハナビラツメゴケ)
Pertusaria bryontha Alpine moss-pertusaria 1992
Physcia tribacioides Southern grey physcia 1992
Pseudocypbellaria lacerata Ragged pseudocypbellaria 1992
Psora rubiformis Rusty alpine psora 1992 (コガネサビクギゴケ)
Solenopsora liparina Serpentine solenopsora 1992
Squamarina lentigera Scaly breck-lichen 1992
Teloschistes flavicans Golden hair-lichen 1992

Stoneworts類

Chara canescens Bearded stonewort 1992
Lamprothamnium papulosum Foxtail stonewort 1988

注

- 1 ここでは時代背景を考慮して、グレートブリテン島およびアイルランド島をゆるやかに指すこととする。
- 2 ロンドン貧民窟住民の生活向上のための社会改良団体であったカール協会 Kyrle Societyは、「もっとも広い意味において、人々に美なる家を提供すること」を標榜し、4部門を置いた。そのひとつ「オープンスペース部門」では活動の第3項目として「切花、植物、シダ、球根の病院、授産施設および貧困家庭への配布」を挙げている。プラントと区別して「シダ」と特記されていることが興味深い。なお、この団体については拙稿「ナショナル・トラスト『創世記』第二回」(社)日本ナショナル・トラスト協会『ナショナルトラスト・ジャーナル』No 18 pp13-14、2003年1月 ISSN 1340-8674をご参照いただきたい。
- 3 RHSに関しては、いまだ王立園芸協会との誤訳がまかり通っていて、訂正される気配はない。1804年に創立された園芸協会が1861年にビクトリア女王の夫君アルバート公から勅許(ロイヤル・チャーター)を得てロイヤルの称号を許された

もの。王家が出資・設立させたとの誤解を招く「王立」との訳語は「誤訳」であると言いつける必要があると感じている。

<http://www.rhs.org.uk/About/history.htm>

(2008年3月29日取得)

- 4 ニシキシダ特集はThe Garden誌 2007年10月号。下記URLから本文や図版を見ることができる。

<http://www.rhs.org.uk/Learning/Publications/pubs/garden1007/ferns.htm>

(同日取得)

- 5 The Selborne Society for Protection of Birds, Plants & Placesいわゆるセルボーン協会。無害かつ希少な動物、鳥類、植物の、絶滅地域への再導入をも視野に入っていたことは注目される。つまり、19世紀末にはそれだけ、環境破壊が進んでいたわけである。拙稿「ナショナル・トラスト『創世記』第五回」(社)日本ナショナル・トラスト協会『ナショナルトラスト・ジャーナル』No 21 pp23-33、2006年7月 ISSN 1340-8674をご参照いただきたい。

- 6 さいきん日本でこれを「戦間期」と訳す人がいるが、英国は現在なお継続中のイラク戦争に至るまで絶えずいくさ〈国権の発動〉を繰り返して、戦死者を出している国である。日本の現況を所与のものさしとすることで、この本質を見誤ることを懸念する。

- 7 これは、英国最古の伝統を誇る王認建築家協会 (Royal Institute of British Architects、以下RIBA) の当時会長であったガイ・ドーバー Guy Dawberの提案とRIBAからの助成金により発足した、非常に大規模かつ有力な専門家集団の連合による運動体で、産業革命によって現出した近代社会を、都市農村計画法、グリーンベルト法その他の環境立法を通じ、第二次大戦後の現代的な福祉国家建設に至らせた原動力となった。ドーバーの当初の思惑は、田園の景観になじまない目障りな建築を政府が規制すべきとの考えであったが、結局のところNPOとして発足し、時の厚生大臣、ネヴィル・チェンバレン(後の英国首相)が創立大会に出席してCPREへの期待〈政府を教育すること〉を述べている。

構成を見ると、RIBAと都市計画協会が中核となり、これに19世紀後半に起源を持つ環境保全団体ほとんどすべて、さらに自治体の連合会各種その他約40の全国団体が交互に役員を派遣・構成している。これにボーイスカウト協会、全国校

長会など約100の全国団体、地方団体が加盟。初代ボランティア事務局長は、後年のロンドン戦災復興計画で有名なロンドン大学都市計画講座教授のパトリック・アーパークロンビー Patrick Abercrombieであった。

- 8 管見のかぎり、本団体の日本への一般的な紹介は、ナショナルトラストと同じく、作家、大仏次郎によっている(大仏「破壊される自然〈5〉『田舎を守る運動』起きよ」朝日新聞1965年2月12日号、東京版夕刊5ページ)。なお、ナショナルトラストについては、先駆的な紹介は早くも戦前に行われている:本位田祥男(ほんいでんよしお)「ラスキンを憶いて」『欧州の憶ひ出』p108日本評論社 昭和8年5月。ほるぶ出版『世界紀行文学全集 第3巻 イギリス』、昭和54年9月にも再録がある。

しかし、ナショナルトラストの制度がその後、日本に一定程度導入されて環境保全運動の方法論となったのに対し、大仏の言う「イングランドの田舎を守る会」の運動は、きわめて断片的な紹介しか行われていない。おそらく本稿が最初であろう。

- 9 「CPREは、通信員の情報を通じて野の草花、灌木、シダが本邦各地において恣に根こそぎされ破壊されているということを知り、関心を寄せている。実に多くの場所で希少種が絶滅の危機に瀕している。こうした思慮の欠如は、田園美を享受しようとする他の人々を落胆させるばかりか、科学的な学問対象として植物学を研究している人々の仕事を大いにそこなっているのである。」CPRE『年報第二号』p19 1928

- 10 上掲CPRE『年報第二号』p20

- 11 法律裁判所law-courtによらず、地域内でのみ通用する法規で、OEDには現代的な地方自治体が誕生するはるか以前の、1370年の用例が挙げられている。「その土地の掟」とでも言えようか。従い、日本語の「条例」とは意味するところがおのずと違っているが、適訳がないためここでは「条例」としておく。

- 12 「野生の花の消滅VANISHING WILD FLOWERS」The Times, April 29, 1929; pg. 10; Issue 45189; col D

- 13 CPRE『年報第三号』p36 1929

- 14 上掲『年報第三号』p30 1929

- 15 上掲『年報第三号』p42 1929

- 16 なお、植物学者による研究目的の採集や、こどもの草花遊びは禁止の対象外とされた。菌類、いわゆるきのこの採集については、季節的に発生するものであり、アメニティを損じるものでないとして、やはり対象外とされたことは興味深い。家庭での清涼飲料水製造のための西洋ニワトコの花の採取、ワイン用の果実の採取も、文化的な慣行として現在まで継続されている。
- 17 www.jncc.gov.uk/page-1377
(2008年3月30日取得)
- 18 Convention on the Conservation of European Wildlife and Natural Habitats (Bern Convention)
- 19 Council Directive 79/409/EEC on the Conservation of Wild Birds (Birds Directive) in Great Britain
- 20 鳥類保護1954年・1967年法、野生動物・野生植物1975年法、絶滅危惧種の輸入・輸出1976年法その他、田園関連諸法など。
- 21 Countryside and Rights of Way (CROW) Act 2000 (in England and Wales)
- 22 Nature Conservation (Scotland) Act 2004
- 23 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成4年6月5日法律第75号)最終改正:平成17年7月26日法律第87号
- 24 同法21ページ。www.jncc.gov.uk/PDF/waca1981_part1.pdf
- 25 藤原定家の逸話が最古のようである。京都御所で「左近の桜」の枝を桜コレクターであった定家が家人に切らせた。和歌でやんわりたしなめさせた天皇に定家は申し開きの歌で返し、このやりとりが風流とされた。なお、この時の枝は開花前で、接木用だったという。日本古典文学大系『古今著聞集』662話、pp503-504 岩波書店1966年
- 26 法律の初版では英名のアルファベット順だが、後の版に従った。和名については、ないものもあって、不十分だが、誤りがあったら乞ご指摘。

岩本陽児准教授のメールアドレス

iwamoto@wako.ac.jp